

1 事業総括

平成29年度特筆すべきことは懸案であった厨房大改修を実施できたことである。前年度から綿密な準備を行い利用者、関係機関の多大な協力もあり5ヶ月間の給食停止を無事乗り切り、新設備の厨房と明るい食堂で給食を再開することができた。

利用者支援においては年間入所者123名、施設目的達成率70%という結果を出す事ができた。これは厨房工事関連の様々な事務や調整を抱えながらも職員一丸となって事業団マニュアルを活用した丁寧な支援を行った成果である。また、活力を引き出す就労支援をかかげ新規就労者53名（昨年度より6名増）自活者4名となった。

一方で月平均47.8%の精神科通院者や30名程度の服薬管理者がおり重複障がい者も増加する中、支援メニューの充実が課題であった。そこで新たにトライワーク（年間10名）切手整理ボランティア（3月開始2回9名）を実施、医療機関との定例ミーティング（今年度3回）も開始した。更に従来からの支援内容を整理し入所時から地域支援を視野にいれたプログラムを実施。「しのばずスタイル」として次年度以降も所をあげて取り組むべく目標とした。

地域福祉への貢献では地元区ゴミゼロキャンペーン（大江戸清掃隊）への参加、OB支援事業開始福祉事務所職員参加による職員学習会、台東区社会福祉協議会との連携強化など地元根ざした貢献を進めることができた。

〔利用実績〕

(単位：人)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	123	9	8	9	18	7	9	13	8	10	8	8	16
退所者数	120	9	7	9	17	8	7	14	9	10	7	9	14
月末在籍数	平均 102.6	101	102	102	103	102	104	103	102	102	103	104	104
28年度	平均 100.0	101	101	101	96	101	103	99	98	100	98	101	101

〔退所理由〕

(単位：人)

	自 活	居 宅 移 管	入 院 除 籍	他 施 設 移 管	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居	帰 郷 ・ 親 族	勾 留 除 籍	死 亡	促 進 社 会 復 帰	そ の 他	合 計
29年度	4	57	5	11	14	13	0	0	2	1	12	1	120	
28年度	7	63	8	8	16	19	1	4	6	1	12	0	145	

2 主要目標に対する成果

(1) 利用促進

新規リーフレットを作成し福祉事務所説明会を実施（2日間）。訪問PRは次年度実施予定。

(2) 地域福祉への貢献

地元区ゴミゼロキャンペーンへ施設をあげて参加（大江戸清掃隊年10回延143名）し利用者の地域貢献への意識を高めた。OB支援事業を開始し今年度5名登録、安定した地域生活継続に繋がった。ケースワーカー参加の職員学習会を実施（1回）。通所事業を活用した地域生活困窮者支援は次年度から開始予定とした。

(3) 利用者支援の向上

幅広い利用者層を支援するため従来からの事業団マニュアルやバックアップセンター事業の活用に加え、トライワーク、切手整理ボランティア、各種グループワークなどを実施した。

(4) 人材育成

職員個々の意向を反映した個別研修計画を策定し研修目的を明確化。キャリアパスを意識した業務配分を行い人事評価と合わせて職員個々の育成を行った。新たに主任を中心とした更生ミーティングを行うなど効果的なOJTを実施した。

(5) 安全対策

細やかな利用者間調整によるトラブルの未然防止やヒヤリハット事例の共有を図った。不審者対策は次年度取り組み予定。

③ 運営管理

- ・5ヶ月間に及ぶ厨房工事期間中も弁当業者との細やかな打合せにより「焼きたてパン」「新商品ドリンク」等メニューを工夫し、通常給食とかわらない喫食数を維持することができた。
- ・活力を引き出す就労支援を目標にトライワーク、就労ガイダンス（11回 22名）技能講習（72名）を活用し積極的に働きかけた結果、70歳代5名を含む年間53名が新規就労につながった。
- ・専門家を招いた事例検討で長期利用者の方針を再検討し、失禁を繰り返し部屋にこもりがちな利用者に笑顔が戻り、施設見学時には自ら着替えてリュック姿で玄関に待機するまでに回復した。
- ・調理食育教室では地元の職人を講師に招き『マイまな板作り』にチャレンジ、8名が真剣に取り組んだ。その後、この折のご縁で10名の利用者が上野の『伝統工芸展』鑑賞に参加した。
- ・しのばず荘初のもちつき大会は利用者職員協働して運営し大いに活気づいた。出来たてのお餅を感謝の気持ちをこめて地域（鳩レース協会・町会長・社会福祉協議会）におすそ分けし喜ばれた。
- ・生活スキルアップ講座ではアンガーマネジメント・ヨガ・医療受診時のノウハウ・ボランティア説明会などを取上げ、5回69名参加、参加者それぞれの小さな気づきにつながった。
- ・毎月の消防訓練（日中想定、夜間想定）の他、消防署員を入れた総合防災訓練や職員（元消防署員）による担架使用訓練、三角巾使用訓練なども実施した。
- ・各種小ミーティングを行い指導会議の時間短縮と効率化を図った。

4 保健衛生・環境整備

- ・防虫対策として入所時に持参した衣類等の洗濯・消毒を徹底しトコジラミの発生を防止した。
- ・インフルエンザ蔓延防止策として手洗い・うがいの励行・館内のアルコール消毒を実施すると共に居室換気に努めた結果、罹患者は昨年より1/3に減少した。
- ・定期健康診断（年2回）、保健栄養教室（年3回）行ない健康についての意識付けを図った。
- ・汚水ポンプ交換等、老朽化した設備補修を積極的に行った外、業務員を中心に小破修繕を実施。

5 施設の社会化（地域交流事業及び施設機能強化推進事業）

- ・足立区民生委員（22名）や台東区新任職員（15名）向け見学会を開催し交流を図った。
- ・葛飾荘と合同で福祉事務所職員に対する利用説明会を実施し34名が参加した。
- ・3校6名の実習生を受け入れ実習指導を行った（社会福祉士）。特人厚派遣研修生1名を受容れた。
- ・台東区社会福祉協議会と連携し切手整理ボランティアを定期的に実施した。
- ・地域連絡懇話会（年2回）に今年度から町会長も参加、施設運営への理解を深め地域貢献についてのご意見もいただいた。

6 福祉サービス第三者評価 評価結果

評価機関：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構 実施期間：H29.6.1～ H30.2.9

全体の講評：

特に良いと思う点

- ① トライワークの導入により、高齢の方や疾病を抱えた方にも、働く意欲を喚起している。
- ② 近隣デイケアクリニックとの連絡会を定期的に開催し、退所後の地域生活を見据えた支援環境の構築に取り組んでいる。
- ③ 「切手整理ボランティアや」や清掃活動に参加し、利用者・職員で地域貢献に積極的に取り組んでいる。

さらなる改善が望まれる点

- ① 利用者の多様なニーズに対して、利用者のQOL（生活の質）向上に向けた取り組みの工夫を期待する。
- ② トライワークや就労につながっていくような新たな日中活動の企画とその実践を期待する。
- ③ 利用者の健康回復のためにも、1日3食の食事が提供できるような体制整備を望む。

施設コメント：

平成28年度の改善目標①研修計画策定②ボランティアの拡大③地域貢献の推進について①③は具体化した。②についても社会福祉協議会に募集を出すなど一歩進めることが出来たことを評価機関から評価された。

今年度のアンケート結果では職員の接遇・態度への信頼67%気持ちの尊重56%など利用者対応に関する項目で高い評価を得る事が出来た。また再開した食事についても57%の方がおいしいと回答。一方で利用者間トラブル対応への信頼は43%であり、今後更なる改善策を検討する必要がある。